

森川河流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成29年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				活動団体 団体数 事業数	特色ある活動等		
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント				
盛岡	盛岡広域管内流域基本計画	●健全な森づくり H28年度の森林間伐面積は1,440haと前年度に比較して増加しているが、近年林業事業体は再造林と下刈作業に作業費を投入していることから、間伐面積を伸ばすことができない状況である。今後、H29年度森林ボランティア参加人数は2488人と目標を達成している。	●生き物や人にやさしい川づくり H28年度の身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体は、昨年度と同数の7団体であった。今後、川と海岸ボランティア活動等支援制度の周知に努めることとする。	●水質の良好な保全 H28年度の水質汚濁防止率は86.4%であり、目標値に対し概ね順調に推移している。 また、河川・湖沼の環境基準達成率及び環境基準未指定河川の水質BOD2mg/L以下の割合(%)は100%であり、良好な水質を維持している。	●環境学習の推進 H29年度の水生生物調査参加団体は37団体と前年度から減少したが、目標値を達成している。今後も参加の呼びかけ等を継続し参加団体数の維持に努めることとする。	●健全な森づくりについては、森林ボランティア参加人数が目標値を達成した。	●森づくりについて、森林間伐面積が伸び悩んでいる。	●環境保全活動の活性化を目的とした人材養成の仕組みづくりを行う。	●主な取組目の指標に関しては、一部数値が伸び悩んでいる項目があるものの、全体的に概ね順調に推移している。	●平成29年度水と緑を守り育てる活動知事感謝状贈呈：滝名川(河川愛護会(紫波町)) ●平成29年度地域環境美化功績者(環境大臣表彰)：山岸緑の子ども会(盛岡市) ●平成29年度水・土壌環境保全功労者表彰(環境省水・大気環境局長)：水堀小中学校ハーキッズクラブ ●地域経営推進費を活用し、環境保全活動応援キャラクター「りば〜るくん」を活用した普及啓発を行う。	70	70	●森林ボランティア参加数 2,488人(H30目標:2,200人) ●環境保全型農業取組面積 815ha(H30目標:1,000ha) ●農地維持活動面積 73% (H30目標:79%) ●身近な水辺空間の環境保全などに取り組む団体数 7団体(H37目標:13団体) ●水生生物調査参加団体数 37団体(H30目標:35団体)
	アレイの里水と緑の推進計画	●植樹、間伐等の森林整備事業 企業等の森づくり活動やいわて森林感謝祭では、下刈、枝打ち、植樹等を実施し、企業・環境活動団体・一般・行政等、多くの参加があった。また、団体が実施する森林整備事業では、イロハモミの森の下刈りや胆沢ダム原山跡地の森づくり、樹木の養生のまきらしなど地域課題に即した活動が推進された。 森林ボランティアによる林野巡視活動(動植物保護巡視など)、企業・団体によるボランティア活動(林道施設、案内標識の整備等)、協定締結による国有林フィールドでの森林教室、自然観察会等啓蒙活動等は、東北森林管理局岩手南部森林管理署が中心となり実施した。 今後、分界を超えた連携協力を進めている。	●河川清掃、河川パトロール 流域協議会構成団体等が独自に河川清掃、パトロール等を実施したほか、北上川下流域の海岸清掃活動については、市民団体、大学生、一般が連携しながら実施された。 またアドプト協定により、7団体が年2回ほどため池周辺の草刈、清掃活動を実施するなどため池周辺の環境維持に努めた。	●水質保全対策の推進 事業所排水による水質汚濁を防止するため、市、町及び県保健福祉環境部が排水測定を実施した。 生活排水対策として、市、町及び県土木部で、水洗化人口割合向上のため公共下水道等の整備や浄化槽の整備を進めた。	●水生生物調査などの環境教育の推進 管内の小・中学生、地区子供会等が水生生物調査を実施しており、水生生物調査の講師として、市、町、振興局職員が出前講座を行う他に、地域の環境アドバイザーの派遣、人材育成事業に参加した方々に補助講師として参加していただくなど、各団体が協力体制を構築している。 また北上川流域の自然観察会、みずさわエコキッズ専業(農業・林業体験や自然活動)、田んぼの学校(環境・生態系に配慮したため池の保全活動)など各構成団体が独自の環境教育に係る事業を実施している。今後もこのような取組を継続し、児童の環境学習を推進していく。	●河川環境の保全に関する取組では、河川の環境基準達成率(BOD)が100%、工場(製造業)の排水基準適合率が94%と概ね目標を達成した。	●高齢化に伴い取組人員が確保できず、これまでのような活動ができない環境活動団体があること。	●指標の達成状況や関係機関における環境保全活動の実施状況等を踏まえて、必要な直しを図っていく。	●地域経営推進費を活用した人材育成の取組は、地域の環境保全活動を行う新たな人材を確保する一助になる等、流域基本計画の目標達成に向けて概ね順調に推移している。	●環境交流フォーラム(企業、一般、環境団体、行政等あわせて180名参加)を開催し、事業者の環境保全活動の取組発表、東日本大震災津波からの自然環境に係る復興等をテーマとした県誌、多様な主体が連携した自然保護活動の推進をテーマとしたパネルディスカッション等を実施した。	23	23	●造林面積 7ha(H30目標:20ha) ●河川の環境基準達成率(BOD) 100% (H37目標:100%) ●環境保全活動実施団体数 23団体(H37目標:22団体) ●廃棄物不法投棄合同パトロールの実施件数 1回(H37目標:1回)
奥南広域	豊沢川流域ビジョン	●豊沢ダム上流部のブナ原生林の保護活動 「花巻のブナ原生林に守られる市民の会」及び地元住民が中心となり、豊沢ダム上流部のブナ原生林の保護活動や子供たちを対象とした自然体験学習を行っているほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施策及び植樹を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●豊沢川流域の河川清掃 地元住民が中心となり、事業者、行政が協力して、豊沢川流域の河川敷の清掃を実施しているほか、毎年春に豊沢ダム周辺に捨てられた廃棄物の撤去作業を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。	●親水活動の促進 主に子供たちを対象とした川流れ体験、水中観察及び自然観察などや、一般を対象としたフライングやカヌー指導などの水辺体験が行われている。 また、冬季にも自然観察や雪道びなの親子雪上体験も行われており、今後も継続して活動を行う。	●地元住民が組織する「豊沢川活性化・清流化事業推進協議会」を中心として、豊沢川流域と豊沢ダム周辺の清掃活動など自然保護活動や親水活動等が、毎年、継続的に行われている。 また、花巻市内の中小河川においても特色ある活動が各団体により精力的に行われている。	●団体が活動するための資金の調達	●他の流域との活動連携	●環境大臣表彰 「花巻のブナ原生林に守られる市民の会(平成12年度地域環境保全功労者表彰)」 ●豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成28年度地域環境美化功労者表彰) ●知事表彰 「花巻のブナ原生林に守られる市民の会(平成10年度環境保全功労者知事感謝状贈呈)」 ●豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成24年度環境保全活動知事表彰(水環境・水資源部門)) ●市内 功労(平成29年度環境保全活動知事表彰(自然保護部門))	6	23	●森林整備面積 377ha(H36目標:508ha) ●汚水処理施設普及率 89.4% (H36目標:90.2%) ●流域の指標生物の観察 普通に観察される (H36目標:普通に観察される) ●親水活動参加人数 485人(H36目標:512人)	
	葛丸川流域ビジョン	●森林の保全 森林組合が中心となり、間伐や造林などの水資源涵養機能維持のための事業を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●河川敷の草刈、清掃や淡水魚の放流事業の実施 河川敷の草刈、清掃については、地元住民が中心となって例年実施しているほか、鮭鱒増殖組合が中心となつての稚魚の放流により葛丸川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。	●たろし滝の計測、自然とのふれあいの促進 例年、親子で参加する「里山の学校」や、サケ、ヤマメなどの稚魚放流、釣り大会などが開催されているが、中でも、毎年、冬に行われる大瀬川上流のたろし滝の水柱測定は、大人から子供までが参加する地域の恒例行事であり、地域の方々と自然との触れ合いの場となっている。今後も継続して活動を行う。	●「たろし滝保存会」及び「葛丸川淡水魚愛護組合」の活動を中心に、たろし滝の計測や淡水魚の繁殖保護活動等を通じて、自然環境保護の啓発を継続実施している。	●限られた団体のみが活動を行っている。	●活動団体の把握と賢治葛丸祭への参加を促進するとともに、他流域との交流を図る。	●知事表彰 「大瀬川たろし滝測定保存会(平成20年度環境保全活動表彰(水資源部門))」	●たろし滝を中心とした活動や夏場の釣り大会、賢治葛丸祭など、毎年、定期的な行事が行われている。 平成29年度は2月に4流域合同の部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。 なお、賢治葛丸祭などの取組を通じて、次代をにう流域人材の育成に取り組む必要がある。	4	9	●森林整備面積 377ha(H36目標:508ha) ●汚水処理施設普及率 89.4% (H36目標:90.2%) ●流域の指標生物の観察 普通に観察される (H36目標:普通に観察される) ●親水活動参加人数 123人(H36目標:100人)
花巻	稗貫川流域ビジョン	●森林の保全 森林組合が中心となり、間伐や造林などの水資源涵養機能維持のための事業を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●河川敷の草刈、清掃や淡水魚の放流事業の実施 河川敷の草刈、清掃については、稗貫川漁協が中心となって、例年春と秋に実施しているほか、稚魚の放流により稗貫川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。	●環境学習の推進 花巻土木センターが主催する「森と湖に親しむ子どもまつり」において、湖面パトロールや魚のつかみ取りなどにより次代を担う子供たちに対する啓発を行っているほか、流域の子供たちが参加する自然観察会や水生生物調査が実施されており、今後も継続して活動を行う。	●地元小学校による環境学習が継続的に行われている。 また、毎年7月に早池峰ダムを中心としたイベントが開催されており、次代を担う子供たちに対する啓発を行っている。	●リーダースhipをとる団体がない。	●地元での活動が一般にあまり知られていない。	●知事表彰 「早池峰の環境保全、地元の小学校による環境学習及び子どもまつり」などの啓発活動などが、今後も継続されることが望まれる。 平成29年度は2月に4流域合同の部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。	4	7	●森林整備面積 377ha(H36目標:508ha) ●汚水処理施設普及率 89.4% (H36目標:90.2%) ●流域の指標生物の観察 普通に観察される (H36目標:普通に観察される) ●親水活動参加人数 104人(H36目標:40人)	
	猿ヶ石川流域ビジョン	●森林の整備 琴畑高原における「水源の森プロジェクト」において、育林活動(植樹・苗木の成長記録)を年間4回行うことにより水源地の保全に取り組んでいるほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施策及び植樹を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●水辺の環境保全 猿ヶ石川の河川清掃後に参加者が川柳を詠むことにより環境保全を啓発するというユニークな活動が行われており、平成25年度からは「田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会」として下流域の花巻市民も巻き込んだ活動となっているほか、宮守川、山谷地区などで地元住民による河川清掃や草刈など環境保全活動が行われ、ホテルが舞う環境が維持されており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。 また、田瀬ダムにおいてアオコが発生を防ぐため、最良装置を導入して水質保全に取り組んでいる。	●環境保全意識の高揚 単に野鳥の観察だけでなく総合的な自然観察会の開催や、メダカやゼニタナゴの保護活動を通じて、子供たちや都市部の住民にまで、里山の身近な自然と生き物にふれあう機会が提供されており、また、環境保全に関する、小中学生の標語コンクールや写真コンテスト及び講演会の開催などにより、地域の方々の環境に対する理解を深め、環境保全意識の高揚が図られている。 ●希少生物保護活動 矢沢地域における里山の希少生物保護活動の対象であるゼニタナゴは、平成22年に県の天然記念物に指定・登録されているが、さらなる地域住民の意識醸成に向け、関係者の協働体制を検討している。	●平成23年度に統合した流域ビジョンにおいて、活動指標の一部に未設定の項目があったことから、指標を中心に流域ビジョンの見直しを行ったほか、上下流の活動団体間の交流を深めるため、合同の流域部会、研修会等を実施した。	●上流下流の連携体制が深まることが望ましい。	●猿ヶ石川の上下流域で共通した活動を通じて交流を深めることにより、流域全体の環境保全活動について一体感と広がりあるバランスを図る。	●知事表彰 「矢沢地域の自然保護を考える会(平成18年度水資源功績者等表彰)」 矢沢地域におけるゼニタナゴの保護等里山の生態系の保全活動を通じて、地域住民の環境に対する意識の啓発に取り組んでいる。 ●NPO法人環境フロンティア遠野(平成29年度環境保全活動知事表彰(環境保全部門)) 小中学生を対象とした「環境に関する標語コンクール」や一般を対象とした「写真コンテスト」を実施し、環境問題を身近に考える機会を創出しているほか、「環境フォーラム」の開催により遠野市環境基本計画の基本理念を普及啓発するなどにより、地域の環境保全活動の推進や環境意識の高揚、次世代への意識の醸成に貢献している。 ●環境省水・大気環境局長表彰 「矢沢地域の自然保護を考える会(平成23年度水・土壌環境保全活動功労者表彰)」 ●(社)日本水環境学会 ●NPO法人イーハトーブ里山水棲生物保存会(2011年度水環境文化賞)	18	28	●森林整備面積 花巻 377ha(H36目標:508ha) 遠野 338ha(H36目標:692ha) ●汚水処理施設普及率 花巻 89.4% (H36目標:90.2%) 遠野 67.4% (H36目標:90.2%) ●流域の指標生物の観察 普通に観察される (H36目標:普通に観察される) ●親水活動参加人数 花巻 0人(H36目標:一人) 遠野 317人(H36目標:280人)	

森川流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成29年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				活動団体 団体数 事業数	主な参考指標(数値はH29年度)		
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント			特色ある活動等	
	わが川流域水循環計画	●森林整備の実施 森林ボランティアによる間伐や枝打ち等のほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の実施及び植林を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●河川清掃活動 和賀川の清流を守る会が主体となって「河川パトロール及び河川清掃」を年2回湯田ダム上下流域で開催しているほか、流域の各地で、流域協議会の構成団体が中心となって河川敷の草刈や清掃を行っている。 また、特定外来種の駆除活動等も行っており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全活動 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。 また、用水路の水質検査を実施し、農業用水の水質保全に努めているとともに、地域資源や農村環境を次世代に引き継ぐため、多様な主体の参加による効果の高い共同活動の推進を図っており、今後も継続して活動を行う。	●自然とのふれあい 子供たちが自然にふれあい、その大切さを学ぶ「里山体験やわんぱく教室」や一般市民を対象にした自然探索会などの活動が多数実施されており、今後も継続して活動を行う。	●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」の構成団体によるホテル観察会や清掃活動など各団体の取組みが定着してきており、構成団体が中心となって情報の発信や、各種取組を通じて森や川に接する場を子ども達に提供するなど環境教育活動が継続されている。	●和賀川の清流を守る会(事務局:北上市)や湯田ダムビジョン推進協議会と連携を図りながら流域の各種取組に関し、定期的な活動が継続されている。	●行政と住民に企業(事業者)を加えた形での各種取組みが図られるような基盤整備が望まれるが、活動団体が固定化しており、新たな団体の掘り起こしが必要であるとともに、新たな視点からの事業を展開していく必要がある。	●新しい活動団体を掘り起こし、和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会の構成団体に加えていくとともに、これまでに養成した環境教育指導者の活動の場を広げていく。	●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」構成団体、NPO法人や行政等が、流域計画に掲げる4つの目標に向け一歩一歩着実に取り組んでおり、徐々にその成果があらわになっている状況にある。 平成29年度は2月に流域協議会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価してゆく。	●知事感謝状 ●NPO法人わが流域環境ネット(平成21年度水と緑を守り育てる活動知事感謝状) ●国土交通大臣表彰 ●和賀川の清流を守る会(平成26年度水資源功労者表彰)	18 54	●間伐面積 310ha(H36目標:352ha) ●汚水処理人口普及率 88.0%(H36目標:92.3%) ●環境省等水生生物調査できれいな水の指標となる水生生物が確認される割合 100%(H36目標:100%) ●子供たちの「きれいな水を守る活動」への参加者数 543人(H36目標:700人)
一関	育もう恵み豊かな森と水 磐井川流域プラン	●森の整備等 いわて環境の森整備事業などを活用した森林整備を行っている。 児童生徒並びに森林ボランティアに対する林業作業体験の支援及び指導を行っている。 また、間伐等による森林整備の推進と、森林病害虫の駆除とその蔓延防止を行っている。	●河川パトロール、清掃活動等 地域住民、団体、企業等による清掃活動が活発に行われており、取組み事例等の情報提供、支援等を行っていく。 また、河川改修の際に、地域住民、各種団体の意見を聞き取り、設備に配慮している。	●環境教育の推進等 環境活動指導者養成(委託事業)や、各種団体による清掃活動や自然観察会による環境教育活動により、水環境への理解が深まってきている。 今後は、各種団体の連携を図るとともに、その取組み並びに活動の幅を広げることに支援していく。	●さらめく水環境を保全・創造する協議会、その他の活動団体の自主的な取組みが徐々に進み、各団体の連携意識が向上している。	●対象地域内では水生生物調査など環境教育の取組が行われており、各地域での継続的な環境活動の下地となっている。	●協議会統合のため、統合後のリーダーの擁立と、組織体制の構築が課題である。	●対象地域で中心となって活動するNPOの育成と、これらの団体の連携を図る。	●地域住民が主体となった、健全な水循環の確保に向けた取組みが、継続的に進んでおり、目標達成に向けて相応の効果が見られてきている。	●環境大臣表彰 ●弓手川結いネットワーク(平成29年度地域環境保全功労者表彰)	24 45	【3流域共通項目】 ●川上・川下交流連携行事 38回(H29目標:10回) ●間伐実施面積 ●ha(H29目標:1,400ha) ●森林ボランティアによる森林整備面積 45.6ha(H29目標:44.6ha) ●森林ボランティア延べ活動人数 4,106人(H29目標:2,632人) ●森林・林業教室開催日数 59日(H29目標:30日) ●水生生物調査団体数 7団体(H29目標:14団体) ●河川のBOD環境基準達成率(磐井川流域) 100%(H29目標:100%) (太田川流域) 100%(H29目標:100%) (金流川流域) 100%(H29目標:100%)	
	育もう恵み豊かな森と水 花と泉のふるさと 金流川流域プラン	●森の整備等 いわて環境の森整備事業などを活用した森林整備を行っている。 児童生徒並びに森林ボランティアに対する林業作業体験の支援及び指導を行っている。 また、間伐等による森林整備の推進と、森林病害虫の駆除とその蔓延防止を行っている。	●河川パトロール、清掃活動等 地域住民、団体、企業等による清掃活動が活発に行われており、河川でのごみ拾いなど清掃美化活動を実施する団体の支援等を行っている。	●環境教育の推進等 各種団体による清掃活動や自然観察会による環境教育活動により、水環境への理解が深まってきている。 今後は、各種団体の連携を図るとともに、その取組み並びに活動の幅を広げることに支援していく。	●東磐井の里・健全な水循環をめざす協議会 ●対象地域内の河川では、小学校等による水生生物調査が行われ、その結果、概ね良好な水質であると認められる。	●東磐井の里・健全な水循環をめざす協議会 ●対象地域内の河川では、小学校等による水生生物調査が行われ、その結果、概ね良好な水質であると認められる。	●対象地域内の中心となるNPOの育成を目指す。	●水生生物調査については、学校以外の自治会等団体による取組みも支援していく。年度内に2流域基本計画を統合し、将来的には東西両岸地域の協議会の統合を目指す。	●地域住民が主体となった健全な水循環の確保に向けた取組みが活発に行われており、目標に向け相応の効果が上がってきている。	●環境大臣表彰 ●弓手川結いネットワーク(平成29年度地域環境保全功労者表彰)	21 34	●間伐実施面積 ●ha(H29目標:1,400ha) ●河川のBOD環境基準達成率 100%(H29目標:100%) ●畜産公害発生率 3件(H29目標:0件) ●堆肥整備率 100%(H29目標:100%) ●水生生物調査団体数 7団体(H29目標:18団体) ●環境保全型農業の取組数 9地域(H29目標:10地域)	
	育もう恵み豊かな森と水 古都平泉の清流 太田川流域プラン	●森の整備等 いわて環境の森整備事業などを活用した森林整備を行っている。 児童生徒並びに森林ボランティアに対する林業作業体験の支援及び指導を行っている。 また、間伐等による森林整備の推進と、森林病害虫の駆除とその蔓延防止を行っている。	●河川パトロール、清掃活動等 地域住民、団体、企業等による清掃活動が活発に行われており、河川でのごみ拾いなど清掃美化活動を実施する団体の支援等を行っている。	●環境教育の推進等 各種団体による清掃活動や自然観察会による環境教育活動により、水環境への理解が深まってきている。 今後は、各種団体の連携を図るとともに、その取組み並びに活動の幅を広げることに支援していく。	●東磐井の里・健全な水循環をめざす協議会 ●対象地域内の河川では、小学校等による水生生物調査が行われ、その結果、概ね良好な水質であると認められる。	●東磐井の里・健全な水循環をめざす協議会 ●対象地域内の河川では、小学校等による水生生物調査が行われ、その結果、概ね良好な水質であると認められる。	●対象地域内の中心となるNPOの育成を目指す。	●水生生物調査については、学校以外の自治会等団体による取組みも支援していく。年度内に2流域基本計画を統合し、将来的には東西両岸地域の協議会の統合を目指す。	●地域住民が主体となった健全な水循環の確保に向けた取組みが活発に行われており、目標に向け相応の効果が上がってきている。	●環境大臣表彰 ●弓手川結いネットワーク(平成29年度地域環境保全功労者表彰)	21 34	●間伐実施面積 ●ha(H29目標:1,400ha) ●河川のBOD環境基準達成率 100%(H29目標:100%) ●畜産公害発生率 3件(H29目標:0件) ●堆肥整備率 100%(H29目標:100%) ●水生生物調査団体数 7団体(H29目標:18団体) ●環境保全型農業の取組数 9地域(H29目標:10地域)	
沿岸広域	釜石・大槌地域流域ビジョン(唐丹流域)	●植林を実施するための道路の刈払い 実施なし。 ●環境の森創造事業(育樹) 実施なし。			●活動なし(震災により、活動団体及び地域が被災。)	●構成団体及び地域の多くが震災により被災していることから、活動可能な団体の確認と再構築が必要。なお、流域ビジョン改訂に向けた情報共有も必要。	●流域ビジョン改定に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。	●課題に同じ。	●知事感謝状 ●唐丹地区流域環境保全の会(平成21年度水と緑を育てる活動知事感謝状) ●局長感謝状 ●唐丹地区流域環境保全の会(平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	21 0			
	釜石・大槌地域流域ビジョン(鵜栗流域)		●小学校のクリーン作戦に併せた清掃活動 実施なし。						●局長感謝状 ●鵜栗地域環境保全の会(平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	42 2	●水生生物調査参加団体数 2団体(H29目標:10団体)		
	釜石・大槌地域流域ビジョン(大槌・小槌流域)	●育樹活動 実施なし。	●河川・漁港清掃活動 実施なし。	●環境塾(水生生物調査)の実施 実施なし。						●局長感謝状 ●大槌・小槌流域環境保全の会(平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	61 1	●水生生物調査参加団体数 1団体(H29目標:10団体)	
	釜石・大槌地域流域ビジョン(吉里吉里・浪板地域)	●EM液投入 実施なし。 ●海岸一斉清掃 実施なし。		●町内各小学校へのプール清掃への支援 実施なし。 ●EM泥団子作り、泥団子の投入 実施なし。						●局長感謝状 ●吉里吉里・浪板地域環境保全の会(平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	57 0	●吉里吉里海岸海水浴場調査 水質AA(H29目標:水質AA)	
	釜石・大槌地域流域ビジョン(甲子川・小川川流域)			●環境パトロール 釜石市内甲子川河川沿い(陸中央端)で実施。	●平成30年3月19日に、釜石市内甲子川河川沿い(陸中央端)の環境パトロールを行った。	●継続的に自立運営していくための財源がない。また、独自の会計機能を有していないため、各助成金等を受けることが出来る組織作りが必要。 ●構成団体、活動内容の見直しが必要。	●各構成団体間の取組みの連携を図る。 ●流域ビジョン改定に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。	●地域住民が主体となった清掃活動が行われる等、目標に向けて概ね順調に活動している。一方で、活動に関わるメンバーが固定化されているため、活動内容の見直し、各団体、個人への周知の仕方考える必要がある。	●局長感謝状 ●甲子川・小川川流域環境保全の会(平成22年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	55 3	●水生生物調査参加団体数 1団体(H29目標:10団体)		

森川流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成29年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				活動団体 団体数 事業数	特色ある活動等	
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント			
大船渡	大船渡市三陸町地域流域基本計画	●森林等の水源かん養機能の向上・保全 気仙地区植樹祭により、ケヤキ1,250本とブナ150本を植樹した。			●環境教育・環境学習の推進 水生生物による水質調査参加人数は、指標を下回り、減少傾向が続いている。	●「健全な森林づくり」のための間伐や再造林、「清らかな河川づくり」のための水酸化人口という各指標は、目標値を達成又はほぼ達成している状況である。	●会長不在のため協議会を開催できず、流域基本計画の評価や協議会の活動を実施できない。 ●協議会の今後のあり方について検討する。	●協議会会長を選定し、流域基本計画の改定を行う。 ●協議会の今後のあり方について検討する。	●「健全な森林づくり」や「清らかな河川づくり」については、成果記載のとおり概ね順調に推移している。	6	25	・水生生物による水質調査出前講座受講生徒数 17人(H29目標:60人) ・植林本数 1,400本(H28目標:2,100本)
	大船渡湾水環境保全計画		●河川環境の保全 県(土木センター)が河川環境維持活動団体7団体に活動に必要な作業用品等を支給し、のべ598人が河川敷の草刈清掃、支障木伐採及びごみ拾いを行った。	●水生生物による水質調査等 水生生物による水質調査により、水環境保全について理解を深めた。総参加人数は91人で指標を下回っているものの、平成28年度と比較しておよそ4倍の参加人数となった。参加団体も前年度より増加しているため、引き続き掘り起こしを図りたい。	●大船渡湾水環境保全計画推進協議会を1回開催(平成29年6月21日) ・重点施策の平成28年度取組実績及び平成29年度取組計画を報告 ・今後の協議会活動の課題や方向性について意見交換 ・54指標中、目標値を達成又はほぼ達成したものは27指標であった。	●多くの活動団体が被災したため、震災の影響で実施できない重点施策が存在すること。 ●大船渡湾の湾口防波堤が復旧したことにより、湾口部の地形が再び変化した。また、湾内の水産養殖施設の復旧に伴い、海水交流及び水質の変化について継続的に監視していくことが必要である。このことを見据えながら、今後の協議会の活動や方向性を再構築が必要があること。 ●地域横断的に活動する団体が少ないこと。	●大船渡湾の水質変化を監視し、環境保全に取り組む必要がある。 ●地域横断的に活動する団体を育成すること。	●森林等の水源涵養の向上・保全や水辺の多様な生態系の確保については概ね順調に進んでいるものが多いが、生活・産業排水対策の推進も同時に進めていく必要がある。	10	14	・水生生物調査参加人数 91人(H29目標:200人) ・河川環境維持活動団体参加者数 598人(H29目標:400人以上)	
	気仙川流域基本計画			●森川海をフィールドとした環境活動の推進 ・住田町の森林環境学習(14回開催)や町民総参加による河川清掃等、森川をフィールドとした環境活動は活発に行われている。 ・海をフィールドとした環境活動については、震災からの復旧・復興途上にあることから当面実施困難な状況にある。 ●自然環境の活用推進 ・陸前高田市の生田地区コミュニティ推進協議会では立教大学との林業体験等地域の特色を活かした各種体験活動を実施し、間伐・植林を目的としたグリーンツーリズムや雑穀栽培の促進等も計画している。 ・震災被害が大きかった地域においては、復旧・復興途上にあることから当面実施困難な状況にある。	●気仙川流域基本計画推進協議会を1回開催(平成29年11月17日) ・重点施策の平成28年度実績と平成29年度計画を報告した。 ・流域基本計画改定に係る素案の検討を行った。 ・76指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは32指標であった。	●活動団体や地域が被災したこと、特に海側における活動の大部分が休止している状態であること。 ●地域横断的に活動する団体が少ないこと。	●復興事業の進展により生活環境等が変化しているため、計画期間途中での重点施策の見直し等を行いつつ、協議会の活動や方向性等を検討していく。 ●地域横断的に活動する団体を育成する。	●計画における施策の推進方向に掲げる「けせんの森を育てる」、「けせんの里を利用する」、「けせんの清流を守る/けせんの海を守る」に係る事業については概ね順調に進んでいるが、「けせんの資源を利用する」、「けせんの人を育てる」に係る事業は停滞傾向にあるため、これらの事業についても進めていく必要がある。	19	35	・森林体験教室等の参加人数 520人(H29目標:60人) ・炭焼き体験参加人数 20人(H29目標:100人)	
宮古	宮古・下閉伊地域流域ビジョン	●植林、育樹作業 管内には自主的かつ定期的に活動している団体が多い。市町村の広報等を通じて参加者を募るなどして、活発に活動している。今後も支援を行っていきたい。	●河川清掃、海岸清掃 震災前に地域活動を行っていた住民が被災し、仮設住宅等に転居せざるを得ない状況であり、ボランティア活動が震災前よりも行えない状況が依然として続いている。 しかし、震災後も積極的に清掃活動を行っている団体があることから、河川及び海岸清掃活動を震災前の水準に戻すために、これらの団体への支援を続けていきたい。 ●地域経営推進費事業「いわて三陸ふるさとの魅力再発見事業」 沿岸局管内6団体に三陸ジオパークの普及啓発活動等を盛り込んだ環境体験学習の実施を委託し、環境調査、地層や化石の観察等を実施。(7月～10月、参加者119名) 講師による基調講演や事業委託団体による事例発表を実施することで、環境活動の現状と課題について情報共有・意見交換を行った。(平成30年2月23日、参加者45名)	●汚水処理施設の整備促進 汚水処理施設整備率は69.8%で、震災以前(平成22年度実績)に比べると、上昇傾向にある。平成29年度の目標値(77.1%)には達していないが、被災した排水施設や処理施設の復興により、更なる整備率の向上が期待できる。	●環境学習の推進 昨年度と同様に小学校単位での環境教育は充実している。地域経営推進費事業による環境団体への活動支援を今後も継続していきたい。 平成29年8月13日 宮古市立宮古小学校で出前講座を行った。参加者:37名	●ビジョンでは、流域基本計画に掲げる7つの重点プロジェクト(森の再生、川と海の環境整備、水質保全、不法投棄防止、安全安心、資源循環型産業育成、環境学習の推進)の達成状況について、14の指標で評価している。このうち7の指標(BOD環境基準達成率、COD環境基準達成率、海水浴場の水質(水浴達成割合)、新たな不法投棄(10t以上)、小中学校の環境学習実施率、環境ボランティア団体数)について、目標を達成した。 ●エコファーマー認定者数が減少傾向であるが、これはエコファーマーの認定有効期限を過ぎても更新しない農家が増加しているためである。 ●いわて道のボランティア活動等支援事業及びいわて川と海岸ボランティア活動等支援制度参加団体数が、申込みが減った関係で大幅に減っていること*が課題の一つとなっている。 ●平成30年度目標に向かっての更なる事業の進展が必要となっている。	●東日本大震災津波からの復興に伴い、それぞれの課題については解決しつつあるものの、台風第10号による被害も受けたため、震災前の状況に戻るまでには、しばらく時間を要する。 ●汚水処理施設については、東日本大震災により漁業集排水施設や合併処理施設等が被災したことにより、汚水処理率が低下している状況にある。 ●エコファーマー認定者数が減少傾向であるが、これはエコファーマーの認定有効期限を過ぎても更新しない農家が増加しているためである。 ●いわて道のボランティア活動等支援事業及びいわて川と海岸ボランティア活動等支援制度参加団体数が、申込みが減った関係で大幅に減っていること*が課題の一つとなっている。 ●平成30年度目標に向かっての更なる事業の進展が必要となっている。	●震災や台風等災害の影響を強く受ける指標を中心として、やや遅れている。 ●第3回宮古・下閉伊地域「森・川・海」保全・創造功労者表彰(H29表彰者) ・永岡 俊典	88	254	・河川清掃ボランティア回数 14回(H29目標:19回) ・海岸清掃ボランティア回数 12回(H29目標:33回) ・新たな不法投棄(10t以上)の件数 0件(H29目標:0件) ・いわて道のボランティア活動等支援事業及びいわて川と海岸ボランティア活動等支援制度参加団体数 1団体(H29目標:10団体) ・エコファーマー認定者数 46人(H29目標:157人) ・小中学校の環境学習実施率 100%(H29目標:100%) ・環境ボランティア団体数 49団体(H29目標:38団体)	
東北広域	久慈地域流域基本計画	●森林教室、植樹活動 森林教室の開催や植樹活動により、森林の持つ役割についての啓発活動の実施、森林の適切な管理に努めている。 協議会等の中で情報共有を行い、官民問わず各団体がより一層連携して活動していけるよう支援を行っていく。	●河川、海岸清掃 多くの団体が自主的に活動しており、平成29年度は延べ57,710名が清掃活動に参加した。 今後も各団体及び地域住民が主体となって取組を継続していく。	●水質保全活動 公共用水域や事業場排水の調査による公衆防止に努め、また、公共下水道・集排水処理施設への接続や浄化槽整備等による汚水処理人口普及率向上にも努めている。 今後も行政主導の取組を継続していく。	●水生生物調査、環境講演会 主に小学生を対象とした水生生物調査の実施、教師を対象とした水生生物調査指導者研修会の実施により、教育現場における環境教育の普及啓発に努めている。また、高校生を対象に地域の自然環境に関する講演会を開催する等、若年層への働きかけにも努めている。 行政が普及啓発を行いながら、各団体及び地域住民が連携して活動を継続していく。	●自然観察会や森林教室の開催により森林環境保全意識の高揚が期待される。 ●多くの団体が清掃活動に参加しており、環境保全に対する意識が向上した。 ●水生生物調査の普及啓発活動、出前講座、指導者研修会を開催することで環境教育の推進が図られた。	●流域協議会開催による情報共有のほか、構成団体等を対象とした活動研修会、セミナーの開催により、意識啓発や活動の質の向上に努める。 ●自然災害等による一時的な活動の減少はあるものの、多くの団体において継続した取組が行われている。 ●今後も活動支援、若年層への働きかけに努め、更なる取組の活性化に期待する。	●環境大臣表彰 ・大野の自然を守る会(洋野町)(平成29年度地域環境美化功績者表彰(環境大臣表彰)) (取組内容) ・長年にわたり河川の清掃活動を継続して実施している他、源流探訪会や稚魚放流等を通じ、地域の環境美化意識の向上に貢献している。	44	173	・清掃ボランティア回数 105回(H33目標:510回) ・いわて地球環境にやさしい事業所認定数 5団体(H33目標:6団体) ・森林面積 8,434ha(H33目標:8,937ha) ・自然観察会等回数 H28:29回(H33目標:77回) ・河川水質環境基準(BOD・COD)達成率 100%(H33目標:100%) ・汚水処理人口普及率 59.0%(H33目標:77.0%) ・家畜排せつ物管理施設整備率 100%(H33目標:100%)	
二戸	カシオペア連邦流域ビジョン	●健全な森林づくり 平成29年度は240haの間伐を行った。(累計8,434ha) いわての森林づくり県民税を活用した「県民参加の森林づくり促進事業」の一環としてカシオペアフォレストスクール事業を実施し、森林学習会(14校、20回、児童延べ472名)開催に講師派遣等の支援を行った。 今後も同様の取組みを継続する。	●健全な川づくり 地域住民や川を守る会、漁協、土地改良区、市町村が、河川や農業用水路等の草刈清掃活動を、個々に、又は協働で取り組んでおり、今後も同様の取組を継続する。	●良好な水質保全 公共用水域水質測定計画に基づき水質測定を行った二戸管内7河川10地点については、環境基準(BOD)を達成し良好な水質を維持した。 下水道、浄化槽の整備に係る目標指標「水酸化人口割合」は着実に伸びている。 今後も水質保全の活動を継続する。	●環境学習の推進 管内小中学校全てにおいて、校務分掌に環境教育を位置づけ、水質調査・森林学習・植林・クレーン清掃等の活動を取り入れ、学習を深めている。 特に、森林学習と水生生物調査の取組には環境団体と行政(県・市町村)が連携して支援している。 また、地元民間の環境団体との共催による「環境フェスティバル」を開催し、特に若年層を中心に地域住民等への情報発信と人材育成に努めた。 今後も環境学習の推進に取り組んでいく。	●各団体とも環境保全活動を継続・持続して実施しているが、反面、活動内容の固定化が見受けられることから、管外で行われている活動を参考として新たな活動を模索するなどにより活動を活性化することが求められる。 ●継続して実施している効果ある活動は、持続させる。 ●情報の共有化を図り、連携し協働することにより、効果的かつ効果的な事業の実施や支援に努める。 ●多様な年齢層に環境への関心を持ってもらえるような取組の推進に努める。	●平成27年度までの実績を基に作成した本ビジョンを指針とし、目標を達成するよう取組を進める。(進行状況は概ね順調)	●森林間伐面積・累計 8,434ha(H37目標:16,783ha) ●多自然型川づくりによる改修・整備済延長 19.7km(H37目標:25.6km) ●BOD環境基準達成率 100%(H37目標:100%) ●水酸化人口割合 43.2%(H37目標:53.8%) ●環境保全型農業直接支払制度における岩手県特認取組等数 0(H37目標:1) ●小中学校の環境学習実施校割合 100%(H37目標:100%) ●青少年の環境保全実践活動等参加団体数 32(H37目標:30)	21	39		